

2016年11月19日(土) 11:00~12:30

通常学級での学び(読み書き計算等)を保障し教科教育への参加を可能にする ICT 利用

講師	平林 ルミ	東京大学先端科学技術研究センター
司会者	近藤 武夫	東京大学先端科学技術研究センター

【企画の趣旨】

LD 児への ICT 利用は、教育へのアクセスを保障する手段のひとつとして、主に米国や英国で積極的に活用されている。日本でもその活用事例が増えており、高校・大学入試での代替手段利用が認められるなど広がりを見せている。

その一方で、読む・書く・計算する手段として ICT を使うようになった LD 児が教科教育に参加していく時、その教科特性に合わせて ICT を活用する技能についての知見は少ない。例えば、文章を目で見て読む代わりに耳で聞いて理解することで、基礎的な文の理解はできるようになるけれども、単に耳で聞くだけでは長文読解力の向上がみられない事例がある。すなわち、国語科においては文章の読解方略を、ICT を利用しながら身につけていく必要がある。また、理数系科目に関しては、ICT の導入がすでに広く行われている米国・英国においても LD のある生徒の理数系科目へのアクセスが制限されているといわれる。ICT を活用して理数系の科目に取り組むための技能が必要であるが、どのような技能を身につければよいのか、その具体的課題が見えるまでに至っていない。LD 児に対しては ICT を導入し、家庭学習や通常教育の中で単純に使用するにとどまらず、それぞれの教科学習に接続するための効果的な指導法とセットで活用していくことが求められる。

本講演では、まず LD のある小・中学生に対して、ICT を活用した読み書き計算の保障がどのように行われているのかを紹介する。さらに、ICT を活用した上で、その先の教科教育で学ぶために必要な技能育成を目的とした指導事例を紹介する。今後の LD 児への指導法開発の方向性とその課題を考察する機会としたい。